

「げんき」またはお近くの発達相談室にご相談ください。



6 世田谷区発達障害相談・療育センター「げんき」

〒157-0074 大蔵2-10-18
大蔵二丁目複合型
子ども支援センター2・3階
TEL:5727-2235(代表)
月～土曜日(祝日、年末年始を除く) 午前9時～午後6時



世田谷区発達障害相談・療育センター「げんき」

開所日時

月～土曜日(祝日及び年末年始を除く)
午前9時～午後6時

利用方法

世田谷区在住の方を対象としています。
相談・療育をご希望される場合は、まず、世田谷区発達障害相談・療育センター「げんき」にお電話ください。

TEL 03-5727-2236(相談専用)

〒157-0074 世田谷区大蔵 2-10-18
大蔵二丁目複合型子ども支援センター 2・3 階
TEL 03-5727-2235(代表)
FAX 03-5727-2238
URL <http://www.ryo-iku.jp>

業務受託：社会福祉法人 嬉泉

〒156-0055 世田谷区船橋1-30-9
TEL 03-3426-2323 FAX 03-3706-7242
URL <http://www.kisenfukushi.com>

1 烏山発達相談室 相談 療育



〒157-0062 南烏山5-17-5 子育てステーション烏山4階
TEL:5384-7811
月～土曜日(祝日、年末年始を除く) 午前9時～午後6時
◀子育てステーション烏山外観

2 梅丘発達相談室 相談



〒154-0022 梅丘1-31-36
TEL:5426-3760
毎週火・木曜日(祝日、年末年始を除く) 午前9時～午後6時
◀小田急線梅ヶ丘駅隣接

3 世田谷発達相談室 相談



〒154-8533 太子堂1-7 昭和女子大学生生活心理研究所内
TEL:070-6554-8801
第2・第3・第4火曜日(祝日、年末年始を除く) 午後1時～5時
◀大学1号館5階

4 桜新町発達相談室 相談 療育



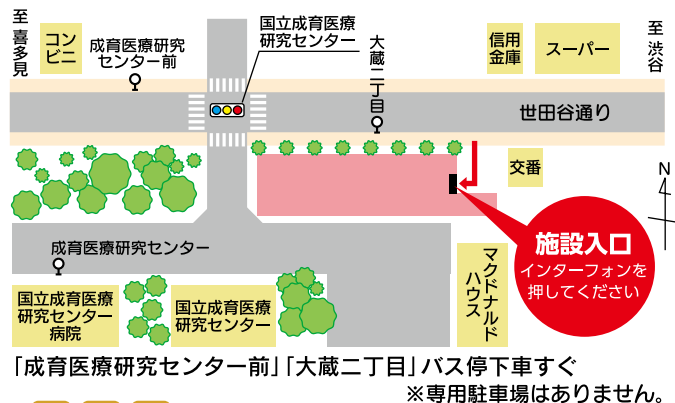
〒154-0015 桜新町2-8-1 世田谷目黒農協本店ビル内
TEL:5426-3521
月～土曜日(祝日、年末年始を除く) 午前9時～午後6時
◀JAビル内にあります

5 成城発達相談室 相談



〒157-0066 成城6-5-34 成城コルティ3階
TEL:5384-7811(烏山発達相談室)
第2・第3木曜日(祝日、年末年始を除く) 午後1時～5時
◀成城コルティの中にあります

アクセス



ご挨拶

日頃より「げんき」の活動にご理解ご協力をいただき誠にありがとうございます。昨年度の「げんき」と相談室の療育でのご利用人数は800名を超え、相談は延約3,500件ご利用いただきました。地域への支援では、保育園、幼稚園や新BOPへの巡回訪問は323回、その他支援者研修や家族支援、講演会等々に多くの方にご参加をいただきました。

今後も、各事業のアンケートやお寄せいただいたご意見を参考にさせていただき活動の向上を目指していく所存です。
世田谷区発達障害相談・療育センター センター長 沼倉 実

Gpress せたがや

第24号

2015 6/20 発行

「ジープレスせたがや」

業務受託 社会福祉法人 嬉泉
<http://www.ryo-iku.jp>

GpressのGは愛称「げんき」のGです。

発行 世田谷区発達障害相談・療育センター「げんき」

発達障害のある人の 「思春期」について考える

～思春期の子どもたちの保護者に向けて伝えたいこと～



平成27年2月28日成城ホールにて、
精神科医・医学博士、東京大学学生相談ネットワーク本部准教授
渡辺慶一郎氏による講演会を開催しました。



渡辺慶一郎氏

病院や相談の現場で働く中で、思春期前後にどういう事をしてあげれば良かったのか、どういうふうに関わっていれば良かったのかということを考えざるを得ません。私の経験や考えをもとにしてお話ししたいと思います。

将来が心配だから、たくさん勉強させないと…
(母)

友だちと何かちがう…
(中学生)

世田谷区発達障害 相談・療育センター って どんどころ？

世田谷区在住の発達障害のある方、またはその疑いのある方、その家族、関係者を対象としています。また、世田谷区の発達障害に対する支援を推進するための中核的な拠点施設として関係機関への支援や、広く区民の皆様に、発達障害について理解してもらうための活動をしています。

世田谷区在住の発達障害のある方、またはその疑いのある方を対象としています。
まずはお電話ください ☎03-5727-2236 (「げんき」相談専用番号)

発達障害のある人の「思春期」について考える

～思春期の子どもへの保護者に向けて伝えたいこと～

当記事は平成27年2月28日に成城ホールで行った講演会の内容をもとに作成しました。

親の関わり方について

❖ 子どもの育て方について考えたり話し合うプロセスが大事

❖ 良い結果が出なかったとしても、きちんと子どもに関わる経験が大事

❖ 親離れには子どもの同年代の人達との関わりが大事

親としてどのような子どもに育てたいのか、あるいはどう子育てしたいのかということは、それについて考えを巡らせたり、話し合ったりするプロセスが大事で、発達障害の性質がある子どもには特にこれが求められます。できないこと、つまづくことが多いので、なぜやらないといけないのか、どこまでやらないといけないのかを親が必ず考えること。それを丁寧にやっていただきたいんです。結局、良い結果が出なかったとしても、大人がきちんと向き合って子どもに関わる経験は非常に大事ですね。逆に、結果としてスポーツが得意だったり勉強が得意だったりしても、大人がちゃんと関わっていないこともあります。すると大人の言うことはあまり聞かないし、聞いてもしょがないと思っている場合があるので、ここはすごく大事だと思いますね。

そして、思春期になると自分の力を試したり、自分だけの力で物事に取り組みたくなります。だけど、親や大人から離れるとできなくなってしまうたり、力が十分でないことをうっすらわかっていますから、親離れ／子離れする時は親も不安ですが、本人も不安です。孤立感や見捨てられた感じが出てくることもまれにある。親からエイッと離れていろいろ試行錯誤してみるときに、同じ年代の人たちとの関わりが大事になります。

学習について

❖ 勉強を何のためにやるのか、親なりの心構えをする

勉強ができなくなったり、勉強をしていても点数があがらない時に、お子さんは“いったい勉強って何のためにやるのか”って考えると思います。子どもは考えなくても親は考えないとダメですよ。正しい答えはないと思うんですけど、親なりの心構えが欲しいですね。

例えば、頑張っているようなテクニックを使って、受験を乗り越えて偏差値の高い学校に入ったとします。その後は、多分さらに頑張って勉強のいろいろな工夫をしなければならない。あるいは、あまり寝ないで勉強したり、家庭教師とか塾に通いながら成績を上げないといけなかった人なら、入学後もなお一層それが続くとかですね。そうすると本人はいったい何を目標して／なんのために学ぶのかって強く疑問に思うことになります。勉強がどういふところに向かうのかということを、まず親は考えていただきたいのです。



告知について

❖ 告知の前にまず準備をする

❖ 子どもの特徴を理解する

❖ 子どもにわかるように説明できるようにしておく

❖ 告知のタイミングを察知する

発達障害の性質がある方で思春期の時に大事にしなければいけないテーマの一つに告知があります。告知の準備をまず大人はしなければいけません。それから診断だけではなく子どもの特徴自体を理解しなければいけない。プロフィールを知っていて、その対策もある程度できていることが望ましいでしょう。「先生の方から告知してください、後はよろしく」ではダメなので、家族もちゃんと理解しなきゃいけません。家族だけでなく関わる人の覚悟も試されると思います。子どもは一回話をしただけでは、納得しないし、わからないので、繰り返し質問してくるでしょう。その時にブレないで、わかるように説明したいですね。そのためにはどのように伝えるのか、どのような言葉を使うのかを吟味する必要があります。加えて子ども側のタイミングとかキャパシティも大事です。こうしたことがわかるためには、子どもをちゃんと見ていて、今どういうコンディションなのか、関わりながら知っていないといけませんね。大体何年生になったらやりましょうというのではなくて、今のタイミングかな？という時がありますので、それに関わる人が察知するということになります。

日常生活能力のトレーニング

日常生活のトレーニング、生活のベースラインを鍛えておくことはどの年代でも大事です。まずは寝たり起きたりすること。発達障害の性質があると、睡眠のリズムが乱れてしまうということが割と多いですね。それから食事をちゃんと摂る。食事の内容ももちろんですが、家族と一緒に食べるというのが大事です。他には、電車とかバスの利用に慣れたりとか、勧誘など嫌なことをされたら断って逃げる等のやり方を知っておくことも必要です。

せいきょういくと恋愛について

思春期になるかならないかのちょっと早めの時に、すでに性教育は行っているほうが良いでしょう。正しい知識をあまり知らず、情報難民になった時に、適切でない行動が起こってしまう危険性があります。

性別の「性」と、生きる「生」を掛け合わせて「せいきょういく」って言う人いますけど、まさにその通りです。解剖や感染症だけでなく、生きるための社会参加や対人関係の領域まで踏み込まないといけませんね。どれくらいまでの行動があったら大人が介入するか、抑止するかということも大事です。

社会性はゆっくり成長しますので、例えば中学生で恋愛に興味がなくても、タイミングがちょっと違うだけなので、将来ないとはいえません。恋愛だけでなく、他者に受け入れてもらうためのコツは、身なりを整えて清潔にしておくこと、それから相手にしつこくしないことも大切です。

恋愛に代表されるような他者との関わりは、伸びてきた社会性を適切に成熟させる、一つの手がかりだと思うので、きちんと取り組むと良いでしょう。



わた なべ けい いち ろう
講師 渡辺慶一郎氏

プロフィール
精神科医・医学博士
東京大学学生相談ネットワーク本部准教授
精神保健支援室/コミュニケーション・サポートルーム 室長

信州大学医学部卒業後、国立精神・神経センター武蔵病院精神科、東京大学医学部附属病院精神神経科、ダグラス病院リサーチセンター留学を経て、東京大学医学部附属病院「こころの発達」診療部特任講師に就任。平成21年4月から東京大学学生相談ネットワーク本部精神保健支援室勤務。平成22年10月から同コミュニケーション・サポートルーム兼務。平成25年4月准教授就任。

